

第31期 Business report

2015年4月1日～2015年12月31日



企業理念

私たちは、
先進的技術を駆使した
製品を創造し、
精密加工を通して
世界の製造業の発展に
貢献する

経営方針

1

内外の法令を遵守し、
フェアな企業活動に徹する

2

イノベーションを追求し、
最先端の技術力と提案力で
社会に貢献する

3

企業価値を高め、
顧客、従業員、株主、
その他のステークホルダー
に報いる

多くのステークホルダーの皆様を支えられ、 設立30周年を迎えることができました。



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015年度は決算期の変更により、2015年4月1日から同年12月31日までの9ヶ月変則決算となりました。

当期では引き続き国内外の展示会に出展するとともに、画期的な新製品を開発することで、設備投資ニーズを積極的に掘り起こしてまいりました。

その結果、当社の受注状況は国内を中心に好調に推移いたしました。国内においては、自動車部品関連企業からの大口受注の他、産業機械関連企業や工作機械関連企業、軸受関連企業からも、多数の複数台受注を獲得いたしました。海外においては、中国や韓国をはじめとしたアジア、米州、欧州等の幅広い地域で現地ユーザーからの新規受注が順調に増加いたしました。

当期の業績につきましては、売上高は、5,873百万円(前年同期比54.5%増)となりました。利益面では、営業利益945百万円(前年同期比192.0%増)、経常利益928百万円(前年同期比204.4%増)、当期純利益621百万円(前年同期比234.5%増)となりました。

当期の配当につきましては、好調な業績を踏まえ8円増額の期末配当20円を実施することとなりました。

経営環境が様々に変化中、本年3月14日に当社は設立30周年という大きな節目を迎える運びとなりました。株主様をはじめ、今日まで当社を支えてくださった全てのステークホルダーの皆様には感謝申し上げます。小さな工場から始まった当社ではありますが、実績を少しずつ積み重ねてきた結果、今日では世界中のお客様の工場に製品を納入する会社に成長いたしました。これはメーカーとしての最高の誇りでもあります。

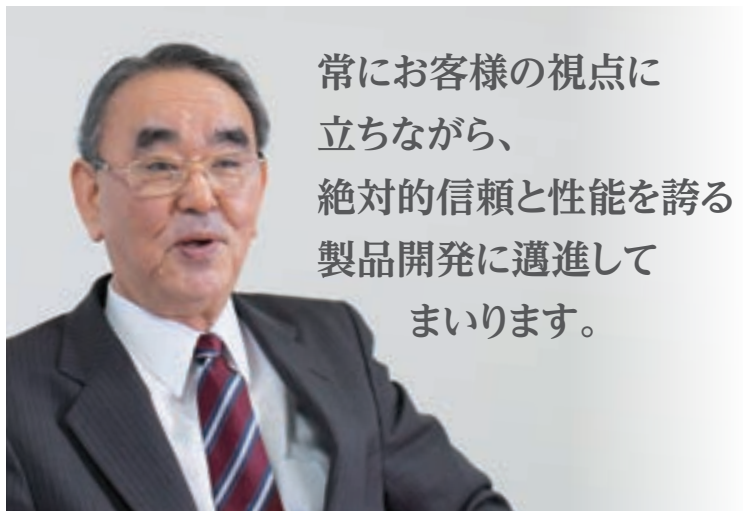
今後とも、世界の製造業の成長に貢献すべく、次世代製品の開発に果敢に挑戦し続けてまいります。

皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年3月

代表取締役社長 渡辺 登

常にユーザーの期待に応えながら、当初計画を上回る売上・利益を達成した太陽工機の2015年度。ここでは渡辺社長への取材を通じて、当期の総括を踏まえ、更なる成長への展開をご説明します。



常にお客様の視点に
立ちながら、
絶対的信頼と性能を誇る
製品開発に邁進して
まいります。

Q1 当期の営業概況について総括願います。

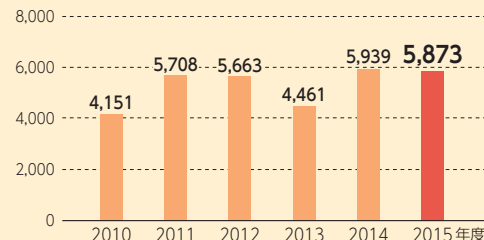
A 当期の営業概況は国内では、政府による中小企業の設備投資に対する補助金交付が中小企業のお客様の設備投資を積極的に促し、大手企業のお客様からも大口受注を数多くいただきました。また海外案件においても、国内企業による海外工場への設備投資や海外現地企業からの新規引き合いも順調に増加したことにより、当期の受注全体の状況としては当初計画を上回ることができたと捉えています。

これらの結果、当期業績は売上・利益の双方で当初計画を上回るとともに、営業利益で対売上比16.1%、最終利益でも

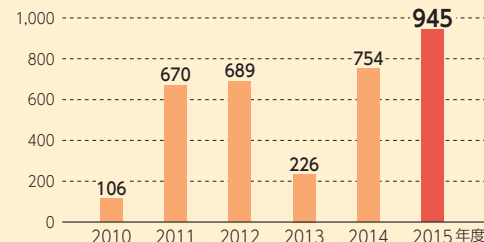
財務ハイライト

※2015年度は決算期変更のため2015年4月1日から同年12月31日までの9ヶ月決算となっております。

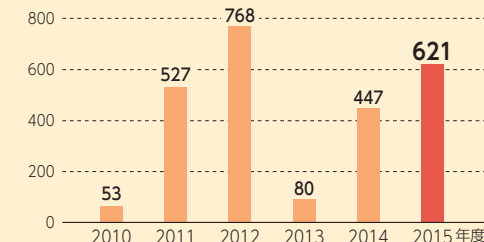
売上高 (単位:百万円)



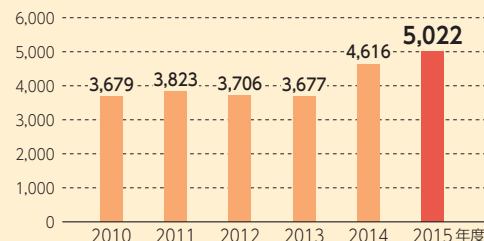
営業利益 (単位:百万円)



当期純利益 (単位:百万円)



総資産 (単位:百万円)



(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

同10.6%を確保することができました。また工場の足元の稼働状況としては6ヶ月先までフル稼働の状態が続く見込みです。今後に向けては、組み立て工程の一部について近隣のパートナー企業への委託等も機動的に図りながら、生産能力の向上と製品の安定供給に努めていく方針です。

Q2

継続して注力されている海外市場の開拓状況についてはいかがでしょうか？

A

当社では中長期目標の1つとして、海外売上高比率50%の達成を目指しています。米州・欧州・中国に営業拠点を構えていますが、海外市場の一層の開拓へ向けた新たな取り組みとして、米州と欧州にて現地技術営業スタッフの採用による営業体制を強化しました。

現地のユーザーニーズと当社製品の強みを熟知した優秀な技術営業スタッフを確保したことにより、早々に両拠点では当社製品に対する具体的引き合いも増え始めるなど、確かな手応えを感じています。海外売上高比率50%へ向けては当期実績40.0%と未だ道半ばですが、海外展示会への出展も併せて積極的に活用しながら、海外での当社ブランドに対する認知向上を着実に進めてまいりたいと考えています。

Q3

研究開発の方向性や新製品の状況についてお聞かせください。

A

「お客様の生の声を聞き、お客様の加工に対する要望に応えるべく新しい機械を考え、それを提案してビジネスにする」、そして「お客様には当社製品を使うことで、生産現場の悩みを解決していただき、製品の品質と生産性と利益を上げてもらう」。これが製品開発における私の基本的な考え方です。

一般的な国内の工場や生産現場を例にとると、広大な敷地を誇る海外のそれらに比べてスペースは有限であり、限られたスペースの中での設備増設がますます求められる傾向にあります。このようなお客様の悩みを解決すべく開発しているのが、今年夏に発表予定の“超小型立形研削盤”であります。この新機種は、自動車関連企業をターゲットユーザーとしており、従来機の高精度・高機能を維持したまま一層の省スペース化を実現することで、お客様の生産性を飛躍的に向上させることができると期待しています。

当社は年間3~4機種をコンスタントに開発することで、常に先手を打ち、他社との差別化を効果的に図ってきました。先の機種に加え年末には工作機械関連企業をターゲットユーザーとした新機種の開発着手も予定しております。今後も当社ブランドの品質と信頼を武器に、研削盤業界トップとしての地位をより確固たるものとしていきます。

Q4

今後の経営の基本的考え方についてご説明願います。

A

当社が工作機械市場の中でチャレンジしようとしている研削盤は、市場全体の10%ほどの小さな規模であり、その中で“立形研削盤”という新しいジャンルを作り、その市場をpushし始めようとしています。そのような状況下において、当社は「守りに入らず、常にチャレンジしていくこと」、「常にお客様を見て、その時代のニーズを捉えた製品を提案すること」、私はこれを日々の経営の中で一番大切にしています。即ち、先にご説明したように、新しい製品を生み出す原点は、お客様の現場にあります。常にお客様の視点に立った製品開発をしていくこと、それがメーカーにとって一番重要なことと考えています。

当社は立形研削盤の分野でのトップメーカーとして、現在では世界の大手航空機エンジンメーカーや建設機械メーカー、国内大手自動車メーカーなどの大手企業から、中小企業まで幅広いお客様の工場に製品を納入させていただけるまでに成長してきました。今後へ向けては、これまでご説明してきた各種経営施策に加え、DMG森精機グループの海外販売網との連携も更に深めながら、市場の拡大と企業認知の向上に邁進していく所存です。



Q5

株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A

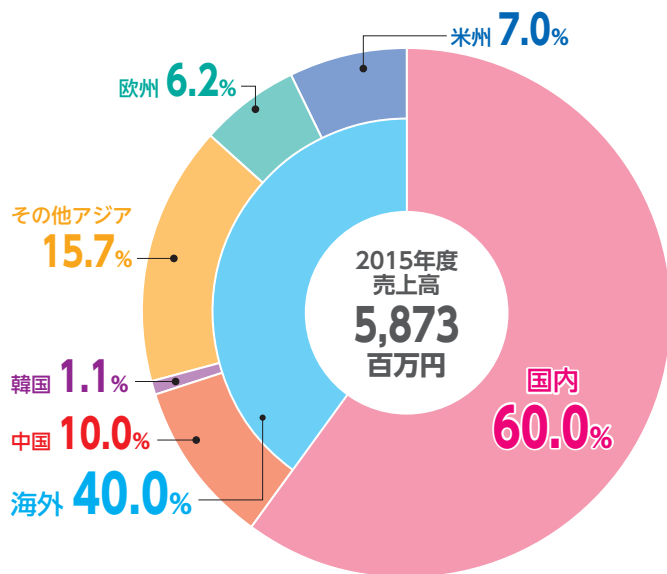
このたびの期末配当は、業績の好調を踏まえ、1株当たり20円(前期比8円増配)とさせていただきます。次期の期末配当も、当期と同額を計画しています。

次期の見通しにつきましては、国内においては自動車関連企業を中心に、産業機械関連企業や工作機械関連企業などの幅広いお客様からの受注が堅調に続くと考えています。また海外においても現地技術営業スタッフの採用等により、引き合いは順調に増加してきております。今後も更なる海外市場の拡大に向け、営業活動に注力してまいります。

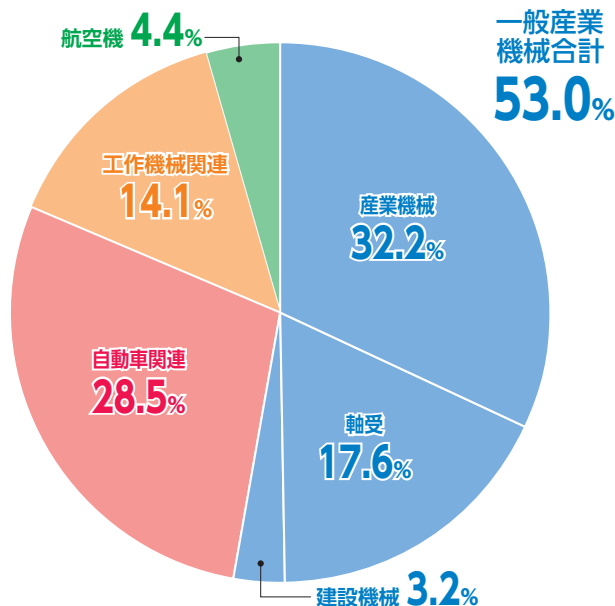
株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。どうぞこれからの太陽工機にご期待ください。

国内を中心に受注及び売上が高水準に推移し、9ヶ月間

地域別売上構成比



業種別売上構成比



国内

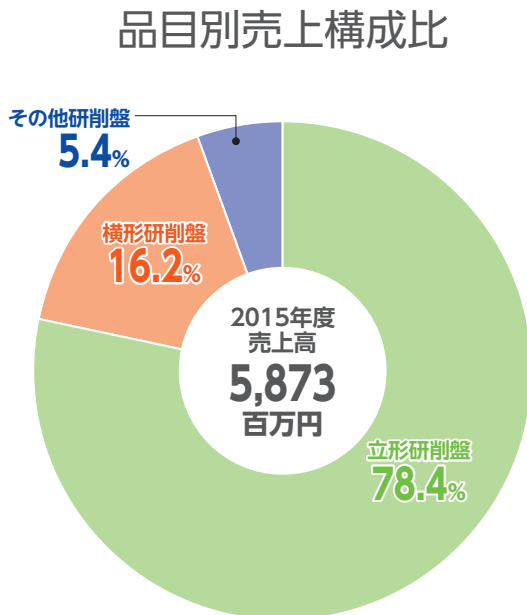
リピーターユーザからの受注が好調に推移いたしました。特に自動車部品関連企業からの継続的な大口受注案件、産業機械関連企業や工作機械関連企業からの多数の複数台受注が売上増加に貢献いたしました。今後もリピーターユーザの設備投資需要を掘り起こすとともに、新規ユーザの開拓に尽力してまいります。

海外

国内の軸受関連企業からのベトナム向け大口受注、台湾の複数の現地ユーザからの新規受注を獲得し、その他アジア地域の売上に大きく寄与いたしました。また国内企業の中国向け納入案件も増加いたしました。今後は、欧州、米州地域の新規開拓に向け、現地営業スタッフの増員及びサービス体制の強化を行ってまいります。

※2015年度は決算期変更のため2015年4月1日から同年12月31日までの9ヶ月決算となっております。

で前期(12ヶ月間)を上回る利益を達成いたしました。



幅広い種類の立形研削盤の受注が売上に寄与いたしました。

立形研削盤では、自動車関連企業から小型機IGVシリーズの受注を多数獲得した他、産業機械関連企業、軸受関連企業から標準機であるNVGIIシリーズ及びハイスパックマシンであるNVGHシリーズ、工作機械関連企業から汎用機であるVertical Mate®シリーズの受注を多数いただき、増収に寄与いたしました。また2014年度、2015年度に発表した高生産型のCVGシリーズ、PGVシリーズの受注も着実に増加いたしました。

横形研削盤では、自動車部品関連企業からのCGNシリーズの大口受注が売上に貢献いたしました。

その他研削盤では、自動車関連企業からリポート複数台受注、産業機械関連企業からネジ研削盤TGNシリーズの受注を獲得いたしました。

今後も製品ラインナップを拡充するとともに、販路拡大に努めてまいります。



立形研削盤とは

立形研削盤は、部品を重力に対して垂直方向に回転させて加工する方式の工作機械です。当社がもつ独自技術により1991年に業界で初めて開発・製品化し、現在は主力製品として国内でトップシェアを占めています。加工する部品を垂直に設置するため、段取りが容易であるばかりか重力の影響を受けず加工精度に優れた特性をもち、工場内の省スペース化にも貢献します。

当社の研削盤が加工した製品は、こんなところで使われています。



当社の研削盤は、自動車や航空機、建設機械におけるエンジン部品やシャフト、ベアリング、風力発電設備の変速機といった重要部品の加工に利用されています。0.001mm単位で要求される精度に応じて、低燃費の実現や振動の抑制などによる乗り心地、安全性、長寿命等品質の向上に重要な役割を果たしています。

貸借対照表

(単位:千円)

科 目	前 期	当 期
	2015年3月31日現在	2015年12月31日現在
【 資 産 の 部 】		
流 動 資 産	3,377,789	3,650,703
現金及び預金	435,358	286,114
売掛金	1,611,321	1,978,278
製品	—	18,248
仕掛品	994,860	1,043,486
原材料及び貯蔵品	222,301	199,672
前払費用	16,449	30,851
繰延税金資産	97,568	90,566
その他	929	4,483
貸倒引当金	△1,000	△1,000
固 定 資 産	1,238,424	1,372,113
(有形固定資産)	(1,156,550)	(1,258,118)
建物	699,648	670,452
構築物	7,592	6,742
機械及び装置	84,214	196,469
車両運搬具	0	1,248
工具、器具及び備品	10,825	28,935
土地	354,269	354,269
(無形固定資産)	(3,838)	(22,027)
ソフトウェア	3,178	13,350
ソフトウェア仮勘定	—	8,017
電話加入権	659	659
(投資その他の資産)	(78,035)	(91,967)
長期前払費用	15,162	28,262
繰延税金資産	3,786	5,146
敷金及び保証金	58,935	58,408
その他	150	150
資 産 合 計	4,616,213	5,022,816

(単位:千円)

科 目	前 期	当 期
	2015年3月31日現在	2015年12月31日現在
【 負 債 の 部 】		
流 動 負 債	1,051,537	917,437
買掛金	375,182	282,432
リース債務	58,952	61,311
未払金	74,557	142,975
未払費用	52,356	77,138
未払法人税等	303,254	163,075
製品保証引当金	62,405	64,076
役員賞与引当金	19,227	21,840
その他	105,601	104,586
固 定 負 債	689,284	643,937
リース債務	652,365	610,186
長期未払金	36,918	33,750
負 債 合 計	1,740,821	1,561,374
【 純 資 産 の 部 】		
株 主 資 本	2,875,391	3,461,441
資本金	700,328	700,328
資本剰余金	472,960	472,960
資本準備金	387,828	387,828
その他資本剰余金	85,132	85,132
利益剰余金	1,735,696	2,321,871
その他利益剰余金	1,735,696	2,321,871
繰越利益剰余金	1,735,696	2,321,871
自己株式	△33,594	△33,718
純 資 産 合 計	2,875,391	3,461,441
負 債 純 資 産 合 計	4,616,213	5,022,816

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

※2015年度は決算期変更のため2015年4月1日から同年12月31日までの9ヶ月決算となっております。

損益計算書

(単位:千円)

科 目	前 期	当 期
	自 2014年4月1日 至 2015年3月31日	自 2015年4月1日 至 2015年12月31日
売上高	5,939,447	5,873,058
売上原価	4,108,929	4,045,499
売上総利益	1,830,518	1,827,559
販売費及び一般管理費	1,075,713	882,120
営業利益	754,805	945,439
営業外収益	11,256	6,189
営業外費用	35,104	23,003
経常利益	730,957	928,625
特別利益	8,942	—
新株予約権戻入益	8,942	—
特別損失	1,774	—
有形固定資産除却損	1,774	—
税引前当期純利益	738,124	928,625
法人税、住民税及び事業税	308,336	301,548
法人税等調整額	△17,927	5,641
法人税等合計	290,409	307,190
当期純利益	447,715	621,434

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	前 期	当 期
	自 2014年4月1日 至 2015年3月31日	自 2015年4月1日 至 2015年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	488,541	137,677
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,583	△206,931
財務活動によるキャッシュ・フロー	△142,350	△79,989
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	327,607	△149,243
現金及び現金同等物の期首残高	107,751	435,358
現金及び現金同等物の期末残高	435,358	286,114

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(単位:千円)

当 期 自 2015年4月1日 至 2015年12月31日	株 主 資 本							純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式		株主資本 合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当 期 首 残 高	700,328	387,828	85,132	472,960	1,735,696	1,735,696	△33,594	2,875,391	2,875,391
当 期 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当					△35,260	△35,260		△35,260	△35,260
自 己 株 式 の 取 得							△124	△124	△124
当 期 純 利 益					621,434	621,434		621,434	621,434
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—	586,174	586,174	△124	586,050	586,050
当 期 末 残 高	700,328	387,828	85,132	472,960	2,321,871	2,321,871	△33,718	3,461,441	3,461,441

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

高生産型の立形研削盤の拡充 ～お客様の生産性の向上に寄与～

2015年度は、昨年度発表した量産加工用の高生産型立形研削盤「PGV-2」の生産性を更に高めた超生産型立形研削盤「PGV-3」並びに中・大型部品加工用の立形複合研削盤CVGシリーズの第2弾「CVG-6」の2機種を発表いたしました。

2機種とも発表直後からお客様に高い評価をいただき、受注は順調に増加してきております。

2016年度は、引き続き自動車関連企業向けに高生産性を更に追求した超小型立形研削盤の開発に注力するとともに、工作機械関連企業のボールネジ部品の加工に特化したネジ研削盤の開発を推し進めてまいります。

今後とも当社は、お客様のニーズにマッチした製品を開発し、付加価値の向上に尽力してまいります。

**PGV-3**

超生産型立形研削盤
自動車部品等
小型量産部品の加工向け

CVG-6

立形複合研削盤
航空機・建設機械・産業機械・工作機械等
中・大型部品の加工向け

国内外の主要展示会への出展

EMO MILANO 2015

2015年10月5日～10日の6日間、イタリアのミラノにて工作機械見本市EMOが開催され、汎用立形研削盤「Vertical Mate®85」を出展いたしました。海外販売の拡大に向け、当社製品の技術力をアピールする絶好の場となり、会期中に展示機の受注を獲得することができました。

メカトロテックジャパン2015

2015年10月21日～24日の4日間、名古屋市のポートメッセなごやにてメカトロテックジャパン2015が開催され、同年6月に発表した超生産型立形研削盤「PGV-3」を含む2機種を出展いたしました。多くのお客様にご来場いただき、会期中に多数の受注を獲得いたしました。

2016年度は展示会の出展数を増やし、当社製品の更なる拡販を図ってまいります。



会社名	株式会社太陽工機 (TAIYO KOKI CO., LTD.)
資本金	700,328,200円
設立	1986年3月14日
主な事業内容	工作機械(各種研削盤)の開発・製造及び販売
従業員	181名
ホームページ	http://www.taiyokoki.com/
本社所在地	新潟県長岡市西陵町221-35
関連会社	DMG森精機株式会社

役員	代表取締役社長	渡辺 登
<small>(2016年3月29日現在)</small>	常務取締役	小林 秋男
	常務取締役	棚橋 基裕
	取締役	高村 寛義
	取締役	渡辺 剛
	取締役	加藤 祐司
	取締役	森 雅彦
	取締役	間瀬 宏
	常勤監査役	大野 和彦
	監査役	大野 義彰
	監査役	内ヶ崎 守邦

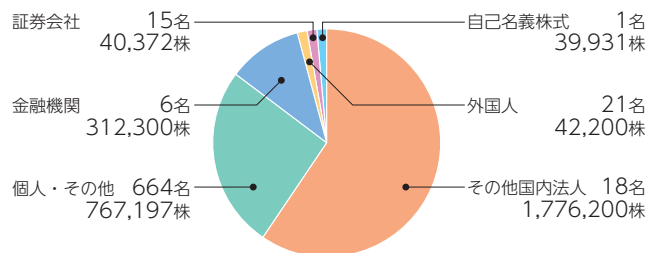
株式の状況 (2015年12月31日現在)

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,978,200株
株主数	725名
大株主	

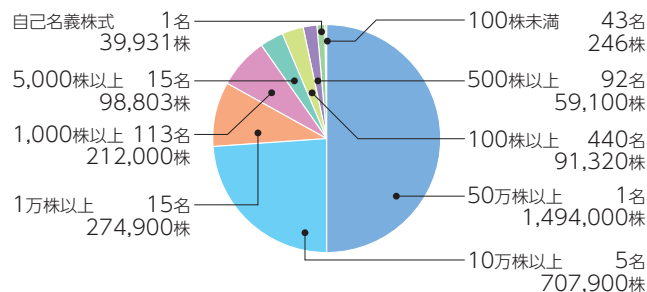
大株主(自己株式は除く)	持株数(株)	持株比率(%)
DMG森精機(株)	1,494,000	50.8
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	193,100	6.5
(株)渡辺	152,000	5.1
渡辺登	148,000	5.0
(株)井高	108,000	3.6
太陽工機従業員持株会	106,800	3.6
(株)第四銀行	40,000	1.3
(株)三井住友銀行	40,000	1.3
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG / JASDEC / FIM / LUXEMBOURG FUNDS 常任代理人 香港上海銀行東京支店 カस्टディ業務部	23,000	0.7
日本マスタートラスト信託銀行(株)	22,900	0.7

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(39,931株)を除いて計算しております。

所有者別分布状況



所有数別分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日~12月31日
期末配当金 受領株主確定日	12月31日
中間配当金 受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 TEL 0120-782-031 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.taiyokoki.com/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

●特別口座の口座管理機関の変更に関するご案内

2016年3月30日をもって、特別口座の口座管理機関を三菱UFJ信託銀行株式会社から三井住友信託銀行株式会社に変更いたしました。

ホームページのご紹介

<http://www.taiyokoki.com/>

当社ではホームページにて当社の企業情報を随時開示しています。製品紹介、各種リンク、サポート情報等を掲載しているほか、IR情報のサイトでは決算短信等をご覧いただけます。



ネットワーク

<国内拠点>

本社・工場

〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-35
TEL. 0258-42-8808 (代) FAX. 0258-42-8810

東部営業所

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-340 ウノビル7階
TEL. 048-658-8701 FAX. 048-658-8702

中部営業所

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-35-16
(DMG森精機株式会社内)
TEL. 052-563-1270 FAX. 052-563-1310

西部営業所

〒564-0052 大阪府吹田市広芝町4-1 江坂・美貴ビル8階
TEL. 06-6378-7166 FAX. 06-6378-7167

<海外拠点>

中国 (北京)

Room 1605, Tower B, Global Trade Center, No.36 North Third Ring Road East, Dongcheng District, Beijing 100013, China
TEL. +86-10-5825-6006 FAX. +86-10-5825-6007
(DMG MORI SEIKI China 北京テクニカルセンター内)

中国 (上海)

No.331 Guangzhong Road, Minhang District, Shanghai 201108, China
TEL. +86-21-6764-8876 FAX. +86-21-6764-9033
(DMG MORI SEIKI China 上海ソリューションセンター内)

アメリカ (シカゴ)

2400 Huntington Boulevard Hoffman Estates, Illinois 60192
TEL. +1-847-593-5400 FAX. +1-847-593-5433
(DMG MORI SEIKI U.S.A., Inc. シカゴテクニカルセンター内)

ヨーロッパ (スイス)

Sulzer-Allee 70 CH-8404 Winterthur, Switzerland
TEL. +41-58-611-5000 FAX. +41-58-611-5001
(DMG MORI SEIKI EUROPE AG内)